



文責
郷土史マスター
川内 つづり

～郷土史つづり～

その 86 「北海道の電気の歴史」後編

前編で安平村早来『勇払電灯』が、昭和16年に『日高電灯』に合併されたところまでお話しました。合併前の昭和初期にすこし戻りますが、その頃の日高沿岸には全く電気の供給がされていませんでした。事業者単独では供給が困難とみなされて、『勇払電灯』と浦河に本拠を置く『日高電灯』が協定し、平取・新冠地域を『勇払電灯』が、静内・三石地域を『日高電灯』が供給することになりました。電源は王子製紙第4発電所から『勇払電灯』が受電し、烏柵舞変電所(千歳村烏柵舞)から佐瑠太(日高町富川)までの58kmに電柱(木柱ピンがいし送電線路)を建てる工事をしました。私は以前聞いた古老の話「日高まで早来が電柱建てたんだ」を思い出しました。支笏湖通りの烏柵舞橋辺りから木の電信柱を一本一本、今のように整備されていない58kmの道に建てたのですね。当時浦河に電灯が灯った日のエピソードが資料にありました。「子供たちは飛び上がって喜び、大人たちは顔のシワまではっきり見えると笑った」「家の中の汚れが見えすぎて落ち着かないと、雑巾を持ち出した」「電燈を消そうと、ふーっと息を吹きかけた」など、家の中も家庭も明るくなった様子がうかがえます。工事に当たった『勇払電灯』のみなさんの苦勞報われるお話です。

所変わって、厚真村では、昭和6年日本石油が石油採掘を始め、電源を日高から受けるため軽舞変電所を建てました。振老変電塔も石油採掘のため変電所となりましたが、石油採掘の成績が悪く、昭和9年に採掘所は廃止され、厚真村の電気普及活動も昭和19年まで途絶えることとなりました。今夜は蛍光灯を消して、電池式ランタンだけで過ごしてみようかしら。

次は続編で、安平村の電気の源であった『王子製紙』について少し触れたいと思います。

令和5年度第13回教育委員会議決事項等報告(3月25日開催)

①安平町認定こども園運営費等補助金交付要綱の一部改正について

②安平町職員住宅管理規則の一部を改正する規則の制定について

③安平町いじめ防止基本方針の一部改定について

④安平町地域学校協働本部設置要綱の制定について

※次回の教育委員会(4月23日開催予定)については次号でお知らせします。また、教育委員会はどなたでも傍聴できます。詳しくは教育委員会事務局まで(☎7036)

安平町図書室 新着図書のご案内

開室日 追分 火～日曜日 9時～17時
まなびお 月～日曜日 9時～21時
☎まなびお:☎7775、追分:☎2565

新しい本がたくさん入りました！早来・追分どちらの公民館の本も借りることができますので、ぜひ図書室へお越しください。リクエストもお待ちしています！

まなびお図書室

〈一般書〉有元葉子春夏秋冬うちの味(有元 葉子)／長倉洋海 地球に謳う 長倉洋海の出会った人と光景(長倉 洋海)／しあわせの輪(群 ようこ)／きらん風月(永井 紗耶子)／北辰の門(馳 星周)

〈児童書〉おいしく！きれいに！魚の食べかたずかん(小倉 朋子)／ねえねえ、きょうのおはなしは…世界の楽しいむかしばなし(大塚 勇三)／すしん(たなか ひかる)／かいじゅうたちはこうしてピンチをのりきった(新井 洋行)／平和の種が見つかる絵本55冊(中本 晶子)

追分公民館

〈一般書〉地球の冷やし方 ぼくたちに愉しくできること(藤村 靖之)／貧乏ピッツァ(ヤマザキ マリ)／老いと創造 朦朧人生相談(横尾 忠則)／銀狼王(熊谷 達也)／ようこそ、ヒュナム洞書店へ(ファンボルク)

〈児童書〉大人も知らない？ふしぎ現象事典 続(「ふしぎ現象」研究会)／エゾナキウサギ 鳴き声できずなを結ぶ(佐藤 圭)／プンスカジャム(くどう れいん)／おしごとそう だんセンター(ヨシタケ シンスケ)／あかいてぶくろ(いりやま さとし)

今月の展示テーマ
『2023年度貸出BEST』

昨年度、図書室で一番読まれた本はなんでしょう。「やっぱり！」それとも「意外!？」

まだ、お読みになっていない方も「あの感動をもう一度」という方も、どうぞご利用ください。

◆ 読み聞かせ 5 月 日 程 ◆	日時	会場
読み聞かせ ありんこ会	5月18日(土)10時30分～	まなびお図書室(早来学園図書室)
ブックスタート読み聞かせボランティア赤ずきん	5月15日(水)11時～	おいわけ子ども園子育て支援センター